



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 84 号

2011.1.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

おしらせ

- ー スタッフ退職のおしらせ
- ー 『自然再生ハンドブック』出版

活動報告

- ー 八幡高原の野鳥観察会
- ー 巣箱・かんじき作り

観察会案内

- ー 冬を生きる動物たちの生態

お し ら せ

● スタッフ退職のおしらせ

高原の自然館に長年勤務いただいた柳崎誠子さんが2010年12月をもちまして退職されました。ご本人よりメッセージをいただいております。

「このたび 私やなぎざきは2010年12月をもって自然館を退職することになりました。自然館オープン以来今日まで多くの方にお会いでき、いろいろな情報をいただいたり、質問をされる事で日々勉強させていただきました。納得のいく仕事ができたとはいえませんが、充実した時間を過ごすことができ皆さんに感謝しています。また八幡でお会いすることがあるとは思いますが、その時は気軽に声をかけてください。なお、今後とも自然館へのご来館ご利用よろしく願います。ありがとうございました。」

● 『自然再生ハンドブック』出版のお知らせ

地人書館より『自然再生ハンドブック』が発刊されましたのでお知らせします。すっかりおなじみになった霧ヶ谷湿原をはじめ、他の地域の事例や、自然再生事業のありかたなど、今の日本の「自然再生」について、体系的にまとめた書籍になっています。詳細は同封のチラシをご覧ください。

- 【書 名】自然再生ハンドブック
- 【監 修】矢原徹一・松田裕之・竹門康弘・西廣淳
- 【発行・発売】地人書館
- 【I S B N】978-4-8052-0827-4
- 【体裁など】B5判、280頁、並製本、二段組
- 【定 価】4200円（本体4000円+税200円）

観 察 会 報 告

●八幡高原の野鳥観察会

開催日時:2010年11月14日(日)8:00

講師:上野吉雄

八幡高原の寒い朝、高原の自然館に25人が集合しました。打合せを済ませ、上野先生の案内で観察をはじめました。高原の自然館を出ると、さっそく観察が始まります。今年は、館の前からヒレンジャクやツグミ、ヒヨドリが見られました。次に向かったのは霧ヶ谷湿原です。今までは道路から観察していましたが、遊歩道ができたことで、再生地の中を歩きながら観察できました。霧ヶ谷湿原はすっかり冬の雰囲気、植物はほとんど枯れていました。しかし、ミゾソバやハギ類の小さな実を食べに、アトリが群れになっており、カシラダカや、珍しいベニマシコモ見られました。ここでもヒヨドリが2羽いっしょに飛んでいました。木道を進んでいくと、足もとの水たまりからマガモが飛び立つなど、水鳥にとっても利用できる環境になっているようでした。木道の上にはタヌキが残した「ためフン」も見られました。それから大歳神社周辺へ向かいました。農道からシラガホオジロを探しましたが、今回は確認することができませんでした。ここでも、たくさんのアトリが電線にとまっており、用水路からはコガモの群が飛び立ちました。しばらく観察していると、上野先生が遠くの空にハイタカの姿を見つけました。初めは小さな点にしか見えず、参加者の中にはなかなか見つけられない方もありましたが、ぐんぐん近づいてきて、ほぼ真上を通過するときにはみなさん姿を確認できました。休耕田ではジョウビタキを見ることができました。さらに、カモ類を見ようと尾崎谷に移動しましたが、ため池には鳥の姿は少なかったようです。しかし、この日は大きな発見がありました。ホシハジロが一羽、ため池の水面を滑るように休んでいました。沿岸部では見られる鳥だそうですが、北広島町では初記録です。飛び立つこともせず、ゆっくりと観察ができました。最後に岩田農園の駐車場でまとめをして、解散しました。短い時間でしたが様々な環境でそれぞれの鳥を観察できました。多様な環境が残っていることが、多様な種を支えているのだということが分かった観察会でした。[しらかわかつのぶ]



霧ヶ谷湿原は、すっかり冬の装い。



湿原をぐるりと歩いた。



木道に並んで鳥を探す。



木にとまったアトリの群れ。



尾崎谷では新発見があった。ゆったりと泳ぐホシハジロ。



遠くにいるハイタカを捉える。



カキツバタ農園にポツンといたホオジロ。

【みなさんの印象に残った物】

「ホシハジロが長くみれたこと」「ハイタカを見つけたこと(3)」「ノビタキが残っていた」「鳥の種類が身近でこんなに多く見られた」「紅葉が美しい」「冬鳥の個体数多い」「アトリが先週よりますます増えていた」「アトリの電線にびっしり並んでいたこと」「アトリ、カシラダカ」「アトリ、カシラダカ」「アトリの大群(4)」「ヒレンジャクを初めて見ました。」「ホシハジロが見えたこと(2)」「キレンジャクとアトリの群れとホシハジロが見れた事」「マミチャジナイ」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「すばやい説明で詳しく教えて頂き、楽しく過ごすことができました。」「たくさんの鳥を見てよかった」「ホシハジロが感動しました」「久しぶりの芸北でした。色々楽しめる所です。」「感動しました。また参加したいです。」「おもったより暖かい」「湿地復活が良かった」「カンボクの実がないのが、今年の実物不足を実感しました」「バードウォッチングは初心者なのですが大変興味がわきました。」「とても勉強になりました。楽しかったです。」「八幡にしては暖かく楽しい観察会でした。」「朝早起きした甲斐がありました」「種類が多く楽しかった」「たくさん鳥が見れて良かったです。」「もっと寒いと思ったのですが暖かくて良かったです」「天気も良く、久しぶりのバードウォッチングで楽しかった」「今年こそシラガホオジロが見たい!!」

観 察 会 報 告

●巣箱・かんじき作り

日時:2010年12月5日(日)10:00

講師:暮町昌保・坂井健作

霜で真っ白な朝でしたが、日差しはだんだんに暖くなり、子どもを含め9人の参加があり、にぎやかな作業が始まりました。暮町先生による巣箱作りでは、まずヤマガラやシジュウカラの生態についての説明がありました。巣箱の穴が大きいとスズメなど他の鳥が入ってしまう事もあるそうです。図鑑からの索引で鳥の声も聞く事ができ、子どもたちは大変喜んでいました。2種類から好きな型を選び、巣箱作り開始です。お父さんやお母さんに手伝ってもらいながら、板に図面通りのサイズに印をして、ノコギリで切り始めます。ノコギリは引くときに力を入れるとよいと先生に指導してもらいながら、イ、ロ、ハと印を付けたパーツを切り進んでいきます。ノコの幅分サイズが狂うので、切っては計り切っては計りと進む方が良さそうです。そして、上下縦の板目になるよう、外側にきれいな面がくる様に組んで釘うちです。杉は割れやすいのでドリルで小さい穴を空けてから釘を打ちました。先生に手際良く穴を空けていただき、次はここ、次はここと、どんどん形ができて行きました。大体はお父さん任せで時々、のこぎり、釘うちの子もいましたが、見本の巣箱を参考にそれぞれ各自の巣箱ができあがりしました。巣箱は11月から掛けるとよく、冬の間はねぐらに利用する事もあるので、帰宅したらなるべく早く掛けましょうという事でした。

かんじき作りは「きたひろしまの達人」に認定された坂井先生に指導していただきました。まずロープを片足分8メートルとして2本用意し、すでに輪にしてある木の中から自分に合う物を選びます。輪は、裏表を間違えない様に継ぎ目が外側にくるよう左右を決めてからロープを前中央から巻き付けていきます。「一昨年も作ったけど」といいながら、「やっぱり、忘れていた？」と真剣でした。「ここが難しい」と言いながら、「男結び」です。きつく引かないと履いて楽なかんじきにならないし、きつくと慣れない作業でロープが通りにくいし、苦戦しながら完成です。前回作っているのでもやはり早くできたようです。今回はかかとも紐を付

けて、実際に靴を履いて、かんじきの履き方の練習です。かかと紐を付けた事でずいぶん履き心地の良い物ができたようです。雪降りの観察会が楽しみだと満足されたようです。最後に各自作品を持って記念撮影です。暮町先生が2種類の椎の実を持ってこられて少し焙ってからみんなで美味しくいただきました。[やなぎざきのぶこ]



かんじき作りはマンツーマン講習。



完成。実際に履いてみたところ。



巣箱づくりは、寸法を測るところからはじまる。



形の違う巣箱が完成。



家族みんなで注目。「父さんががんばって！」



暮町先生が振る舞ってくださったスダジイとシリブカガシを食べ比べて、観察会が終了。



鳥の大きさに合わせて、出入り口の穴を開ける。

【みなさんの印象に残った物】

「子ども達が参加されてとても良かったです」「鳥の事が少しわかったのでよかった」「どんぐりおいしかったし、安い参加費でありがとうございます」「一枚の板を長さを計り、切って組み合わせて巣箱が出来上がっていくのが、楽しかったです」「すばこを作って楽しかった」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「今年は一工夫、先生がして下さい、とてもはきやすいものが出来ました」「技のある方に教わり、楽しくできた」「初めて参加しましたが、出来た巣箱に鳥が入ってくれる楽しみがありました。」「また巣箱を作りたいです(2)」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 冬を生きる動物たちの生態

開催日時：2011年1月16日(日)10:00

(※日程が変更となりました。ご注意ください)

場所：高原の自然館

講師：上野吉雄

準備：基本セット、かんじき、スノーシューなど

定員数：30名

参加費：一般=300円 / 賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

かんじきレンタル：200円

雪に閉ざされた八幡高原でも冬を生きる動物たちは活動しています。動物たちが雪上に残したサインを観察しながらトレッキングしましょう。積雪量が多いと長靴では歩きにくいので、かんじきまたはスノーシューをご用意ください。レンタルも可能です。

● 2010年度のイベント計画について

2010年度のイベント計画をお知らせします。なお、日程は変更になる場合がありますので、毎回の苅尾電波塔にご注意ください。

2011年

2月20日 雪原のトレッキング

3月19日 早春のトレッキング

日程未定 プッポウソウの保全



新年あけましておめでとうございます。2010年は、霧ヶ谷湿原の完成、生物多様性キャラバンの実施、八幡湿原自然再生シンポジウムの開催とさまざまなことがありました。その中でも、西中国山地自然史研究会がNPO法人となったことは大きな出来事です。充実した活動ができるよう、2011年もどうかご支援、ご協力をよろしくおねがいたします。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info